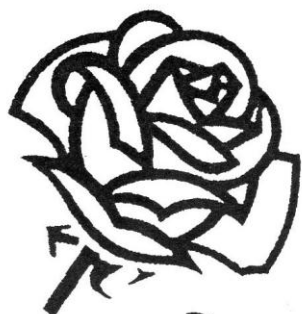


平成 23 年 10 月 1 日 発行

稲城市明るい選挙推進協議会  
稲城市明るい選挙推進委員会



# いなぎ しろばら

選挙人名簿登録者数 (平成 23 年 9 月 2 日現在)	
男	33,926 人
女	33,111 人
計	67,037 人

みんなで “徹底しよう” 「三ない運動」



贈らない。

求めない。

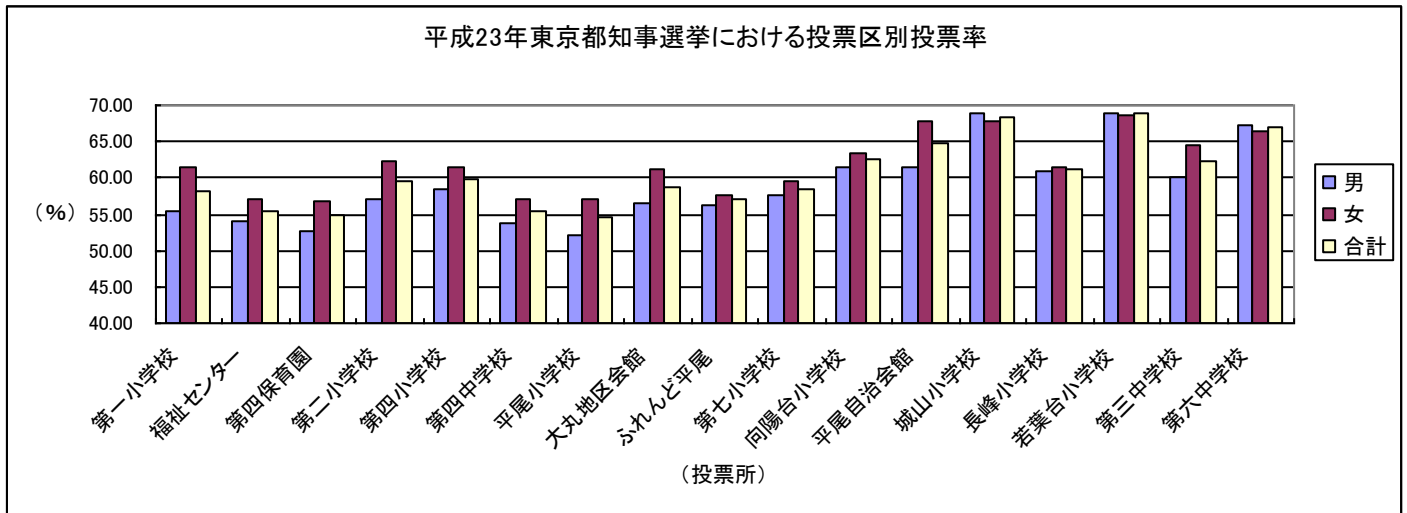
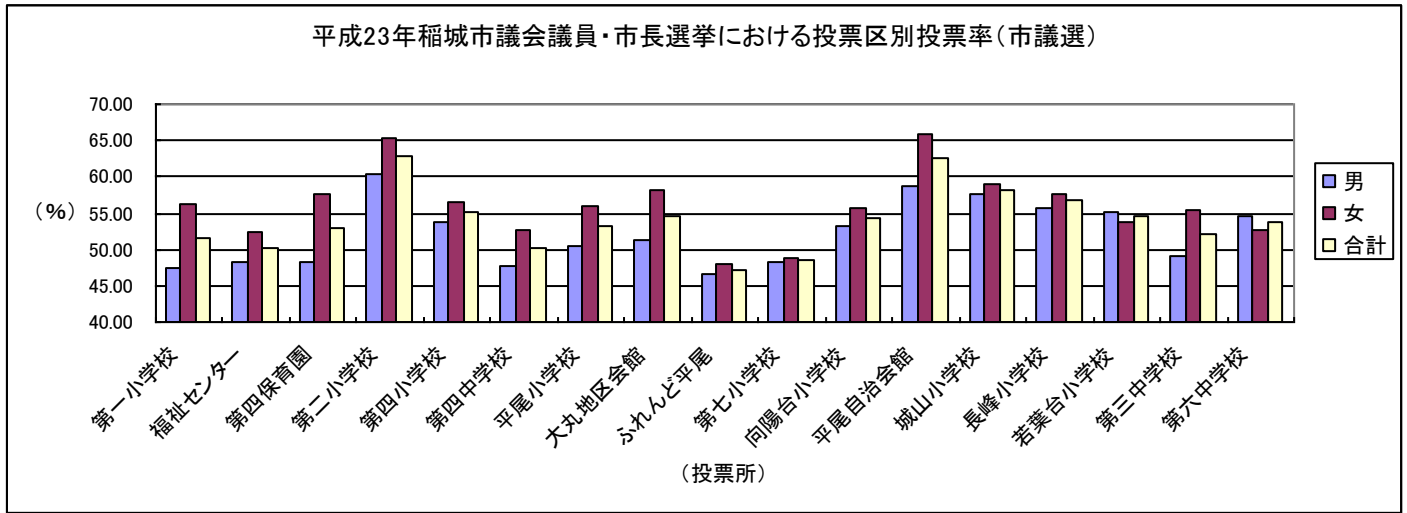
受取らない。

## 明るい選挙とは

国民一人ひとりが政治や選挙に関心を持ち  
不正に惑わされることなく、自分の考えで  
正しく投票することです。



稲城市議会議員・市長選挙および東京都知事選挙の投票区別投票率



※お断り：平成23年稲城市議会議員選挙と稲城市長選挙は、投票総数の差が1票でほぼ同じ数値となるため、グラフおよび表には市議会議員選挙結果の数値を利用していますが、便宜上、両選挙のグラフおよび表と表記しています。

投票区	第一小	福祉センター	第四保育園	第二小	第四小	第四中	平尾小	大丸地区会館	ふれんど平尾
市議・市長選挙	51.5	50.2	53.0	62.8	55.1	50.1	53.2	54.7	47.3
都知事選挙	58.2	55.5	54.7	59.6	59.9	55.4	54.7	58.8	57.0

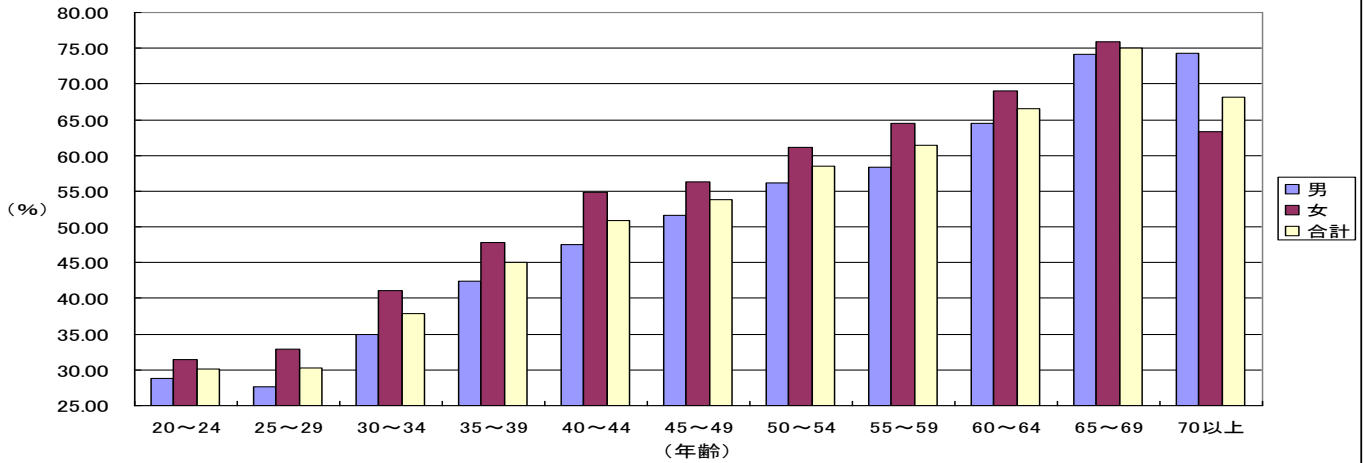
投票区	第七小	向陽台小	平尾自治会館	城山小	長峰小	若葉台小	第三中	第六中
市議・市長選挙	48.5	54.4	62.5	58.3	56.7	54.5	52.2	53.6
都知事選挙	58.5	62.5	64.9	68.3	61.3	68.8	62.3	66.9

- ☆ 市議・市長選挙：①投票率50%未満 ⇒ 2投票区      ②投票率50%以上～60%未満 ⇒ 13投票区
- ③投票率60%以上 ⇒ 2投票区
- ☆ 都知事選挙：①投票率50%未満 ⇒ なし      ②投票率50%以上～60%未満 ⇒ 10投票区
- ③投票率60%以上 ⇒ 7投票区

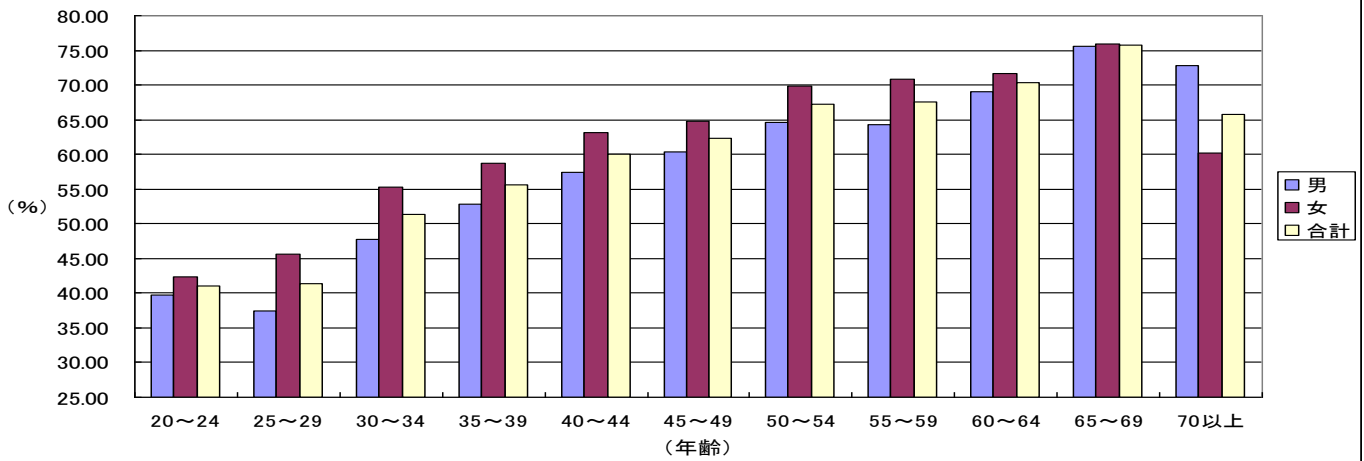
投票区別(地域別)の投票率をみると：市議・市長選挙 ⇒ 地域による差が大きく50%以上～60%未満が12投票区で50%未満の2投票区を併せると全体の約88%である。  
 一方、都知事選挙 ⇒ 50%未満はなし、50%以上～60%未満 ⇒ 10投票区、60%以上 ⇒ 7投票区と全投票区共約55%以上であり、地域差が比較的小さい。

# 稲城市議会議員・市長選挙および東京都知事選挙の年齢別投票率

## 平成23年稲城市議会議員・市長選挙における年齢別投票率(市議選)



## 平成23年東京都知事選挙における年齢別投票率



年齢	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	(%)
市議・市長選挙	30.1	30.2	37.8	45.0	50.9	53.8	58.5	61.4	66.6	75.0	68.2	
都知事選挙	41.0	41.4	51.4	55.6	60.1	62.4	67.2	67.5	70.3	75.7	65.8	

- ①市議・市長選挙、都知事選挙とも年齢に比例して投票率が上昇している。ただし70歳以上では下降している。
- ②20歳から60歳前半まで市議・市長選挙より都知事選挙の投票率が高く60歳後半で並び70歳以上で逆転している。
- ③20歳代の投票率が最も低くなっている。      ④特に25歳から29歳までの男性の投票率が低くなっている。

稲城市議・市長選挙より  
なぜ都知事選挙の投票  
率が高いのでしょうか？

1. 都知事は、国に対し発言・影響力が大きい？
2. 東京は、首都であり、それにふさわしい人を選びたいという、都民（市民）の気持ちがある？
3. 注目されている人、有名な人が立候補している など

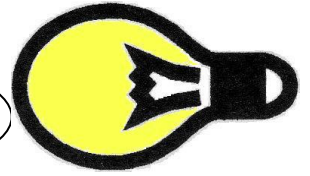
### 稲城市議・市長選挙、都知事選挙の投票率 (%)

	男	女	計
市議・市長選挙	51.6	55.4	53.5
都知事選挙	58.8	61.8	60.3

選挙当日有権者数 都知事選挙(平成23年4月10日)	
男	33,278人
女	32,535人
計	65,813人

選挙当日有権者数 市議・市長選挙(平成23年4月24日)	
男	33,049人
女	32,304人
計	65,353人

明るくよい社会にするため、投票所に足を運びましょう  
「ローマは、1日にして成らず」と……  
私たちのために、働く政治家を見つけ出しましょう  
誰がやっても「同じさ」をやめて…

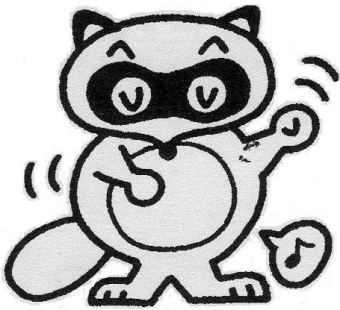


「LED」で明るくなるかな～？

◎当日、投票所に行けなくても大丈夫です（下記の制度があります）

きじつぜんとうひょう

## ☆ 期日前投票 (きじつまえとうひょう) とも、いいます。



投票日当日、仕事やレジャーなどで投票できない人は、期日前投票ができます。選挙期日(投票日)に、仕事や旅行などの都合で投票できない人が、選挙人名簿に登録されている市区町村の期日前投票所で投票する制度です。宣誓書(註1)の提出が必要ですが、そのあとの投票方法は、投票日当日の投票とほぼ同じです。選挙期日の公示日(告示日)の翌日から投票日の前日まで、期日前投票ができます。

註1：宣誓書は各世帯に郵送する「投票所入場券」の裏面にあります。また、投票所にも用意してあります。

ふざいしゃとうひょう

## ☆ 不在者投票

入院先の病院や入所している老人ホーム(註2)、名簿登録地以外の滞在先の市区町村などで投票する制度です。

まず、事前に請求をし、投票用紙等の交付を受けます。投票は、交付を受けた投票用紙に投票所で記載をし、封筒に入れ、封をして提出することによりおこないます。



註2：都道府県の選挙管理委員会が不在者投票のために指定した病院・老人ホーム等でのみ、その施設で投票ができます。

### ◎ 稲城市明るい選挙推進委員会の主な事業

1. 明るい選挙推進委員会の開催(隔月定例委員会実施)：明るい正しい選挙と投票参加を推進していく上での諸問題について、推進委員相互に意見交換し、事業の効果的な推進を図るために開催する。
2. 話しあい活動の実施 ⇒ 昨年は「自転車に安全に乗るためのルールとマナー」について
3. 啓発誌の作成・配布 ⇒ 「いなぎ・しろばら」
4. 話しあい指導員研究会への参加 など
5. 明るい選挙啓発ポスターコンクールの実施：(5～9月募集、9月審査) ⇒ 市の入選作品を都へ推薦。全審査終了後、各文化センター等に市の入選作品を展示する。
6. 市民祭・成人式での啓発活動
7. 投票参加の街頭啓発
8. 講演会・研修会への参加
9. 明るい選挙推進委員会管外研修

◎以上を実行するため、各地区で役割を分担して活動しています。 ⇒ (広報)、(日帰り研修)、(市民祭・成人式)、

(ポスターコンクール作品展示)、(話しあい講座)など

### 編集後記

若い人の政治に対する「関心度が低いこと」が指摘されています。4月の都知事選挙と稲城市議・市長選挙の年齢別投票率を調べてみました。やはり20歳代は、他の年齢層より「都知事選挙」、「市議・市長選挙」共に低い投票率です。

20歳代(若い人)の投票率をアップさせるには、どうしたらよいのか？大きな課題です。当選後の「議員」の活動を見守る事で ⇒ 関心度を高め投票率アップに、つながればと思うのですが？

東日本大震災(2011.3.11 発生)は、甚大な被害をもたらし、「復興」には、長い月日と莫大な費用を要すと、思われます。1日もはやい復興を念じつつ、「政治」の大切さ重要さを痛感しています。

☆「しろばら」は、平尾地区が担当しました。